

令和4年度学校関係者評価

専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科

令和4年度学校関係者評価委員

■保護者

スポーツ柔整学科(午後部) 小柳津亜柚の保護者様

■企業関係者

立志道接骨院 井谷陽介 先生

■他校関係者(卒業生)

石橋俊樹 先生

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	B
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A

【現状の問題点】

設問3が下がっているので、方法を再検討する必要がある

【改善のための方策】

設問3に関しては他学科がどのように学生に浸透させているかを聞き、取り入れられるところがあれば取り入れていきたい。またスポーツ柔整学科は2限終了後に柔整健康学科は授業開始前にSHRを行うようにしていく。週番日誌にも教育理念・教育目標におけるコメント欄を作成し浸透させていく。

【関係者評価】

上記のような方策を取り入れて改善に努めていただければと思う。

2. 学校運営		
【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	B
9	組織内の連携は適切に図られているか。	B
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は充分なされているか。	B
13	BSCは適切に活用されているか。	B
【現状の問題点】		
全体的に前年度より評価が下がっている。どこに問題があったかの検証が必要である。		
【改善のための方策】		
業務効率化ができるように科内で打合せをしていく。そのことで組織内の連携も図れると思われる。設問12は教職員教育を行える時間の確保・研修の実施をしていただければと思います。設問13に関しては毎月行うことができないことがあったので来年度は継続して活用できるようにしていきたい。		
【関係者評価】		
空いた時間を利用し教職員同士で意見等出し合って時間の確保に努めてもらえればと思う。		

3. 教育活動		
【自己評価結果】		平均
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
16	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
17	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	B
18	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	B
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
不合格者のサポート体制は今後重要になってくると思われるので、対応策の検討をしていく必要がある。		
【改善のための方策】		
国家試験不合格に対しての指導を行い、なるべく学校に登校してもらえるような環境作りをしていく。可能であれば不合格者に対しての補講も取り入れていきたい。		
【関係者評価】		
不合格者に対してのメンタルサポートを必要かと思われる。メンタルサポートをしつつ不合格者本人の意志を尊重しながらやっていければ良いと思う。		

4. 学修成果		
【自己評価結果】		平均
26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	B
【現状の問題点】		
退学率の低減は全学的な問題であるので、協力して検討する必要がある		
【改善のための方策】		
入学の部分でしっかり職業理解をさせることが大事だと思われる。また退学率低減について学園(学校)で検討できる機会を設けてもらい意見交換をする。 他校との退学率の比較を行い、退学率の指標を作成することも良いのではないかとと思われる。		
【関係者評価】		
職業理解や学業意識が低い学生のモチベーション維持ができるように工夫してもらいたい。		
5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	B
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	B
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
他科と比較すると28～29は評価が低い。改善案の検討を行いたい		
【改善のための方策】		
各学校行事で最終的なフィードバックがないことがあるため、そこを徹底していく。設問29では玄関の認証式自動ドアが来年度設置予定のため改善されると思われる。		
【関係者評価】		
カウンセリング体制としては機能していると思うが、解決に至っているかどうかの問題。各先生がカウンセリング能力を向上していくことが必要だと思われる。		

6. 教育環境	
【自己評価結果】	平均
33 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
【現状の問題点】	
学生数が増えており校舎の問題が出てきているが、ハード面では対応が難しいこともある。いろいろと検討して行きたい	
【改善のための方策】	
他学科と協力し合いながら教室の確保をしていくようにしていきたい。	
【関係者評価】	
上記のように他学科と連携し合いながら教室を確保してもらいたい。	

7. 学生の受け入れ募集	
【自己評価結果】	平均
34 学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法, 時期は適切か。	A
34 入学案内(パンフレット)には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35 体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36 入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	B
【現状の問題点】	
設問36については適切と思われる案を出しあって行く必要がある。	
【改善のための方策】	
入学者選抜の時期、方針については適切だと思われる。方法では面接だけでは学力の把握が難しいので学力が把握できるような取り組みができれば良いと思う。	
【関係者評価】	
面接の中で心理テスト的な出題をし人格等を把握することができないだろうか。	

8. 財務		
【自己評価結果】		平均
38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A
【現状の問題点】		
大きな問題はないと思われる		
【改善のための方策】		
継続して実施する。		
【関係者評価】		
特になし。		

9. 法令等の遵守		
【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	B
【現状の問題点】		
ハラスメントについては、意見があれば委員会に申し出てほしい		
【改善のための方策】		
教職員・学生に対する啓蒙活動を実施していく。また、ハラスメントに関する事案については、ハラスメント委員を通じて委員会に適宜報告する。		
【関係者評価】		
ハラスメントに関しては信頼関係が大切だと思われる。教職員間・教員学生間でしっかり信頼関係を結んでもらえればと思う。		